

話もできる「デジタルコ

トランスロン 音声通話オプション追加

富士通グループのトランスロン（横浜市港北区）は6月28日、クラウド型運行支援サービス「ITP-W e b S e r v i c e」

に「音声通話オプション」を追加。情報機器事業推進部の酒井健二氏は、「話もできるデジタルコは業界初。ぜひ活用頂きたい」と語る。

同サービスは、ネットワークデジタルコに音声送受機としてハンドセット（1台4万8000円）を取り付けるだけで通話を可能にし、ドライバーと事務所間のコミュニケーションを支援する。同部の田中充部長

田中部長（左）と酒井さん



部の田中充部長

要」。通信回線はF O

能。留守電機能も搭載

る。（大西友洋）

同サービスは、ネットワークデジタルコに音声送受機としてハンドセット（1台4万8000円）を取り付けるだけで通話を可能にし、ドライバーと事務所間のコミュニケーションを支援する。同部の田中充部長

また、「車載専用の通話機や事務所側の指合局設備がいらなかったら、簡単に始めて頂ける。免許の申請も不要」。通信回線はF O

ハンドセットと本体



MA網を採用し、全国で安定利用できる。

通話は交互通話（トランシーバー方式で、「ドライバーは通話ボタンを押すだけ、事務所側も通話したい車両を画面で選んでボタンを押すだけ」。1通話で最大20秒まで話せ、事務所側からは同20台までの一斉同報も可能。留守電機能も搭載

しており、酒井氏は「荷積み中のドライバーも離席中の運行管理者も後からメッセージが聞けるため便利」という。

料金は1契約あたり月額1155円（税込み）で、毎月150分まで通話できる。同社の調べでは、無線を使用している事業者の平均通話時間は月100分強のため、「150分あれば十分と想定している」。なお、通話時間を複数車両でシェアできるため、通話実績を見ながら契約数の見直しもできる。田中部長は、「効率的な運行管理の実現に、ぜひ役立ててほしい」と語る。